

山本郡

〔太宰管内志 筑後二〕山本郡

竹野郡、太政官處分、依請、
名義は大山を負たる故なるべし、和名抄に、肥後國山本郡山本などあり、森氏云、山本郡は耳納山麓にあれば、負せたるなるべし云々と、いへり、此説さもあるべし。○さて地圖を按るに、山本郡、東竹野郡、南は上妻郡、西御井郡、北御井川を堺として、御井郡となりて、郡中に田地多くして、南方に箕尾山あり、土地狭少なる事、國中第一なり、

御井郡

〔太宰管内志 筑後三〕御井郡

郡の方位は、東方山本、竹野二郡に隣り、西は三潞郡、又肥前國にとり、北は御原郡にとり、郡中に大川流れて、運送の便よく、三潞郡につぎて豊饒の地なり、

〔日本書紀 十七 續體〕二十二年十一月甲子、大將軍物部大連、鹿火、親與賊帥磐井、交戰於筑紫御井郡、
略○下

三潞郡

〔日本紀略 嵯峨〕弘仁九年十一月丙午、筑後國御井郡高良玉垂命神爲名神、
〔太宰管内志 筑後五〕三潞郡

美無万は美奴万を唱へひがみたる物と聞ゆ、古言に美無萬と云事あるべくもあらず、さて玉篇に、瀞音猪水所停也と見え、又和名抄に、安房國朝原郡大瀞於保奴萬とあり、式に出雲國出雲郡美努麻、名義は、沼に由有て負せたるべし、土地、様もし神社、又阿波國麻殖郡天水沼間比古神社と云も有、か思はる、所なり、○中さて方位は東上妻下妻二郡に隣り、南山門郡に隣り、西は河を隔て肥前國に隣り、北は御井郡、又肥前國に隣りて、郡中に山なく、西北に大河流れて、諸品運送、便よく、豊饒土地にして、國中の大郡なり、

〔日本書紀 十四 雄略〕十年九月戊子、身狹村主青將吳所獻二鵝、到於筑紫、是鵝爲水間君犬所囓死、別本云、是鵝爲筑紫嶺縣主泥麻呂犬所囓死、由是水間君、恐怖憂愁、不能自默、獻鴻十隻與養鳥人、請以贖罪、天皇許焉、

上妻郡

〔筑後志 郡名一〕上妻郡 倭名鈔加牟豆萬、今讀て加宇豆萬、